

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特定口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 <お問合せ> ☎ 0120-232-711 <各種手続用紙のご請求> 東京 ☎ 0120-244-479 大阪 ☎ 0120-684-479
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村証券株式会社 全国本支店
上場証券取引所	東京証券取引所 マザーズ市場
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ltt.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)



LTT Bio-Pharma

株式会社LTTバイオフーマ

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号 汐留ビルディング3階
TEL: 03-5733-7391 FAX: 03-5733-7397

<http://www.ltt.co.jp/>

証券コード：4566



LTT Bio-Pharma
REPORT 第8期・中間事業報告書
2009.4.1～2009.9.30

日本発、世界に冠たる バイオベンチャーでありたい

経営理念

画期的な新薬・医療技術の開発で
人類の福祉と健康に貢献する

日本の生命科学技術および
産業の活性化に寄与する

常に時代の先端を目指す



証券コード：4566



「未来を拓く新たなステージへ」

今期を更なる成長を実現する第二創業期のスタートと捉え
 全社一丸となって事業活動に邁進して参ります。



株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様で、当社の中核である創薬事業の研究開発は概ね順調に推移しております。特に、既に臨床試験（静脈内投与）で効果が確認されているPC-SODの間質性肺炎治療薬としての開発に関しては、よりQOL（患者様の生活の質）の高い投与方法である吸入療法が評価され、公的機関からの研究費を得て臨床試験を開始することになりました。またAS-013に関しましては、北京泰徳製薬へのライセンスアウトが決定し、中国で本格的な臨床試験に入ることになりました。一方基礎研究段階にありますナノPGE1やNSAIDに関しましては、複数の製薬企業と共同研究への交渉を続けております。今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役会長 水島 徹



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。当上半期においても、重要な経営課題である上場維持について筆頭株主の異動等様々な取り組みを行ってまいりました。事業面での具体的な成果として、創薬事業ではAS-013のライセンスアウトにより契約一時金収入を得るとともに、NEDOからの助成によりPC-SODの研究開発に弾みがつきました。EIP事業においてもインターフェックスジャパンへの出展を機に製薬関連企業から順調な受注を頂いております。

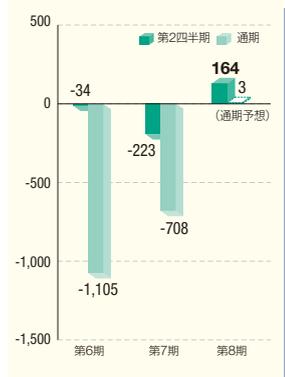
今後も全社一丸となって経営課題をひとつひとつ解決していくことで企業価値の更なる向上を図ってまいりますので、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 巖

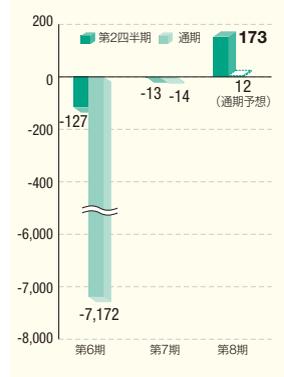
売上高 (百万円)



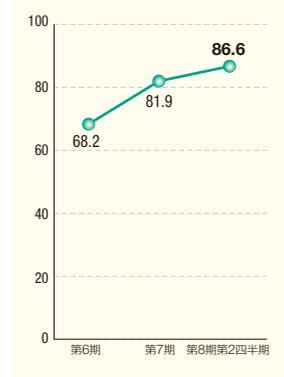
経常利益 (百万円)



純利益 (百万円)



自己資本比率 (%)



※第6期における通期の売上高が第2四半期より減少している要因は、株式会社アスケレピオス及び同社子会社6社を連結対象外としたためです。

※第8期予想における売上高の減少は、前期において調剤薬局事業を手がける連結子会社(株)ソーレの全株式を譲渡したためです。

創薬事業

パイプライン	対象疾患	特徴
PC-SOD	間質性肺炎	現在他に有効な薬剤はなく、 上市が期待されている製剤
	静脈注射	第II相臨床試験終了
	吸入投与	基礎研究 第I相臨床試験開始へ
AS-013	潰瘍性大腸炎	新しい作用機構の薬が求められて います。
	末梢血管病変	慢性動脈閉塞症をターゲットにし た第2世代のPGE1製剤
ナノPGE1	末梢血管病変	1回の投与で2週間効果が持続す る第3世代のPGE1製剤
NSAID	炎症性疾患	副作用が少ない新しい非ステロ イド系抗炎症薬
SRG	抗がん剤による 白血球減少	投薬回数が減少する事で患者様 の負担が軽減
ナノステロイド	リウマチなど炎症・ 免疫疾患	抗炎症効果の増強と副作用の 軽減
HAp-IFN	C型肝炎	投与回数が減少することで 患者様の負担が軽減

AS-013のライセンスアウトを実現

北京泰徳製薬に対して当社パイプラインAS-013のライセンスアウトを行い、契約一時金収入を計上しました。今後の同社による研究開発の進展によりマイルストーン・ロイヤリティによる収益が見込まれます。今後、中国において第Ⅲ相臨床試験を開始する予定です。

PC-SODがNEDOの助成事業に採択

PC-SOD新たな投与方法である吸入投与の研究がNEDO（独立法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より助成事業に採択され同機構の助成により臨床試験を開始します。これによってPC-SODの研究開発は大きく前進する見込みです。

国内外へのライセンス活動の強化

創薬事業の更なる収益向上と研究開発の進展を図るため日本・韓国等の製薬企業を中心に当社パイプラインの導出に向けた取り組みを強化しております。

EIP事業

販路の拡大と順調な受注の伸長

インターフェックスジャパンへの出展を契機とした引き合いの増加や、医薬関連商社との販売提携等による販路拡大により、これまで大手・中堅の製薬企業を中心に40社超を開拓し製品、試作依頼等の受注が順調に伸びております。

EIP杵の改良製品B-typeを開発、販売を開始

従来のEIP杵と比べ薬剤の付着抑制機能を飛躍的に高め、より高打圧での打錠を可能にしたEIP杵の新製品B-Typeを開発し販売を開始いたしました。様々な打錠障害等の有効な解決策のひとつとして利用されております。

四国経済産業局より特定研究開発等計画へ認定

EIP杵・臼の研究が「中小ものづくり高度化法」に基づく特定研究開発等計画へ認定されました。今後は産業技術総合研究所や徳島文理大学薬学部等との連携においてEIP技術の高度化を図っていきます。

多様な分野へのEIP技術の応用

EIP技術はほとんどの金属に処理が可能であり、廃液等の排出がないため環境への負荷がほとんどありません。また、耐腐食性や耐久性、硬度、摩擦など機能性に秀でており、これらを複合的に付加することができるため多様な用途への応用が期待されます。

EIP技術の今後の展開

多様な分野におけるEIP技術応用の可能性

EIP技術が生み出す強み

低摩擦性能

耐腐食性能

高硬度性能

半導体

医療関連
機器・器具

スポーツ
用品

一般工業用
部品

様々な用途におけるEIP技術への引き合い・
試作依頼を獲得

財務データ(連結)

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	第7期 (2009年3月31日現在)	第8期第2四半期 (2009年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	803,030	996,144
固定資産	738,153	658,283
資産合計	1,541,184	1,654,427
負債の部		
流動負債	263,303	209,767
固定負債	14,993	11,423
負債合計	278,297	221,190
純資産の部		
株主資本	1,262,887	1,433,236
純資産合計	1,262,887	1,433,236
負債純資産合計	1,541,184	1,654,427

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	第7期第2四半期 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日	第8期第2四半期 自 2009年4月 1日 至 2009年9月30日
売上高	621,931	42,790
売上原価	453,705	8,210
売上総利益	168,225	34,579
研究開発費	162,617	86,577
その他の販売費及び一般管理費	450,250	175,518
営業利益	△ 444,642	△ 227,516
営業外収益	221,005	388,561
経常利益	△ 223,637	161,044
特別利益	104,555	10,000
税金等調整前四半期純利益	△ 119,082	171,044
法人税等	△ 105,351	695
四半期純利益	△ 13,731	170,349

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	第7期第2四半期 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日	第8期第2四半期 自 2009年4月 1日 至 2009年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 154,920	117,162
投資活動によるキャッシュ・フロー	105,000	44,585
現金及び現金同等物の増減額	△ 49,920	161,748
現金及び現金同等物の期首残高	411,360	647,052
現金及び現金同等物の四半期末残高	361,440	808,800

2010年3月期の連結業績見通し

上場来初の通期連結損益黒字化達成へ

2010年3月期は、前期に連結子会社であった(株)ソーレの全株式を譲渡し、創薬及びEIP事業に経営資源を集中いたしました。そのため、売上高は大きく減少する見込みですが、創薬事業におけるライセンスアウトの実現、EIP事業の受注拡大、配当金収入等の営業外収益等が貢献し、連結損益及び営業活動によるキャッシュフローはともに黒字化を見込んでおります。

2010年3月期の連結業績見通し

(百万円、%)

	第7期通期 自 2008年4月1日 至 2009年3月31日	第8期第2四半期 自 2009年4月1日 至 2009年9月30日	第8期通期予想 自 2009年4月1日 至 2010年3月31日	前年同期比
売上高	1,261	42	150	△ 88.1
創薬事業	24	33	60	150.0
EIP事業	—	9	90	—
調剤薬局事業	1,236	—	—	—
営業利益	△ 907	△ 227	△ 401	—
経常利益	△ 708	161	3	—
当期純利益	△ 14	170	12	—

株主の状況について

北京泰徳製薬が新たな筆頭株主へ

本年6月に当社の元筆頭株主より全株式を取得し北京泰徳製薬が新たな筆頭株主となるとともに、同社との資本・業務提携を開始し一層の協力関係の強化を図っております。

株主構成(株式数)

